

2014年度 決算説明会

イオンフィナンシャルサービス

2014年度 連結業容及び業績



・2014年度は、「原点回帰」の年と位置付け、今後の成長を確実なものとするために、ガバナンス体制の構築を最優先事項として取り組む

2014年度		
	実績	前期比
連結有効会員数	3,567万人	+177万人
内、国内会員数	2,464万人	+119万人
イオン銀行口座数	432万口座	+64万口座
連結営業債権残高 (債権流動化含む)	3兆2,424億円	+4,486億円

2014年度			
	実績	前期比	公表差
経常収益	3,290億円	115%	+90億円
経常費用	2,759億円	113%	+69億円
経常利益	530億円	129%	+20億円
当期純利益	304億円	147%	+39億円
配当金	60円	±0円	—

セグメント別業績



	クレジット	フィー	銀行	海外	調整額	連結合計
経常収益	1,464億円	454億円	416億円	1,125億円	△169億円	3,290億円
前期比	112%	124%	101%	123%	—	115%
経常費用	1,142億円	435億円	417億円	904億円	△139億円	2,759億円
前期比	111%	123%	106%	120%	—	113%
貸倒関連費用	88億円	12億円	0億円	297億円	—	397億円
前期比	95%	393%	—	138%	—	126%
経常利益	321億円	18億円	△0.3億円	221億円	△30億円	530億円
前期比	115%	159%	△19億円	135%	—	129%
貸出金残高	3,806億円	185億円	8,800億円	2,573億円	—	1兆4,742億円
貸出金利回り	14.5%	1.8%	1.5%	24.8%	—	9.0%
資金調達コスト	0.5%	0.9%	0.2%	4.0%	—	0.8%
貸出金利鞘	14.0%	0.9%	1.3%	20.8%	—	8.2%

連結貸借対照表



連結	実績	期首比	連結	実績	期首比
現金預け金	4,677億円	+510億円	預金	1兆9,630億円	+2,452億円
貸出金	1兆4,742億円	+1,974億円	有利子負債	8,069億円	+1,697億円
内、国内貸出金	1兆2,218億円	+1,580億円	内、国内有利子負債 (内、コールマネー)	4,359億円 (763億円)	+1,061億円 (+714億円)
キャッシング+小口ローン	4,164億円	+628億円	内、海外有利子負債	3,709億円	+635億円
内、海外貸出金	2,573億円	+444億円	利息返還損失引当金	48億円	+17億円
割賦売掛金	1兆382億円	+808億円	買掛金等	3,061億円	△152億円
支払承諾見返	1,836億円	+72億円	支払承諾	1,836億円	+72億円
貸倒引当金	△492億円	△17億円	負債合計	3兆2,645億円	+4,087億円
有価証券等	4,749億円	+914億円	純資産合計	3,249億円	+176億円
資産合計	3兆5,894億円	+4,263億円	負債及び純資産合計	3兆5,894億円	+4,263億円
貸出金利鞘	8.2%	(※)+0.4%	自己資本比率 (国内基準)	8.1%	△0.9%

(※貸出金利鞘は前期比)

資金調達について



- ・国内において歴史的な低金利環境が続き、低利の長期資金の調達が可能
- ・金利上昇やリファイナンスのリスクを鑑み、低金利環境下での長期の資金調達を推進



想定リスク 金利上昇 リファイナンス

短期資金

- ・預金(普通・定期)
- ・借入金

長期資金

- ・預金(定期)
- ・社債
- ・借入金

短期資金控

- ・ショッピング(1回)流動化
- ・コミットメントライン等

債権流動化

- ・住宅ローン等

資金の考え方

- 想定されるリスクへの対応として、長期で低金利の資金調達を優先

- ・調達資金をより高利回り商品へ投資
- ・長期債権のオフバランス化によるバランスシートの効率改善

【2015年度計画】

- ・長期債権取扱高5,200億円
- ・債権流動化額3,500~4,000億円
- ・利益影響額約100億円(前期比△50億円)

経営統合からの振り返り

2015年度 連結業績予想



	業績予想			
	業績	前期比		
経常収益	3,800億円	116%		
経常利益	610億円	115%		
当期純利益	330億円	108%		
1株当たり 当期純利益	166円09銭	112%		
	第2四半期末	期末	年間	配当性向
	予想 前期比	予想 前期比	予想 前期比	予想 前期比
配当予想	28円 +3円	38円 +3円	66円 +6円	39.7% +0.4%

2014年度の位置付け



- ・2014年度は中長期的な成長に向けた「原点回帰」の年と位置付け
- ・国内外の経営資源グローバル視点で共通化

2014年度 原点回帰

- ・小売業を基盤とした銀行持株会社
- ・経営資源をグローバルな視点で捉え共通化
- ・ガバナンス体制の構築に専念

2013年度 第2の創業

- ・経営統合初年度
新たなビジネスモデルでの事業開始

振り返り及び課題の認識



	振り返り	課題
業績	・経常利益、当期純利益で過去最高益を更新	・インスタブランチ、ATM事業の黒字化モデル確立
シナジー	【融資の利便性向上】 ・無担保ローン残高の増加（2年間で+1,555億円）	・無担保ローン利用者の拡大 ・審査基準の精緻化
	【マーケティング力の向上】 ・ビッグデータの基盤構築に着手	・顧客分析のスキルアップ、分析人員の不足
	【海外事業の強化】 ・上場3社を中心に業容・業績を順調に拡大	・融資事業の構成が高い収益構造からの転換
ガバナンス	【営業力強化と生産性の向上】 ・本社機能を統一し、営業部門へ人員をシフト	・各社が持つ金融サービスのクロスセル
	・国内外で経営管理及び監査体制を強化	・成長のためのさらなるガバナンス体制強化

原点回帰の取り組み（沖縄ライカム店）



・4月25日オープンした沖縄ライカム店は、イオン銀行創業時のコンセプトに基づいた店づくりを展開



原点回帰の取り組み（沖縄ライカム店）



・わかりやすく、便利で、スピーディーなオペレーションによりクロスセル、アップセルを推進

<p>カードディスプレイ</p> <p>実際のカードをご覧いただきブランドイメージを醸成</p>	<p>予約システム</p> <p>待ち時間を無駄なくお買物にご利用</p>
<p>デジタルサイネージ</p> <p>さまざまな金融商品のご案内によるクロスセル</p>	<p>インターネットバンキング</p> <p>リアルとネットの融合及びペーパーレス化の推進</p>

原点回帰の取り組み（鎌取店）



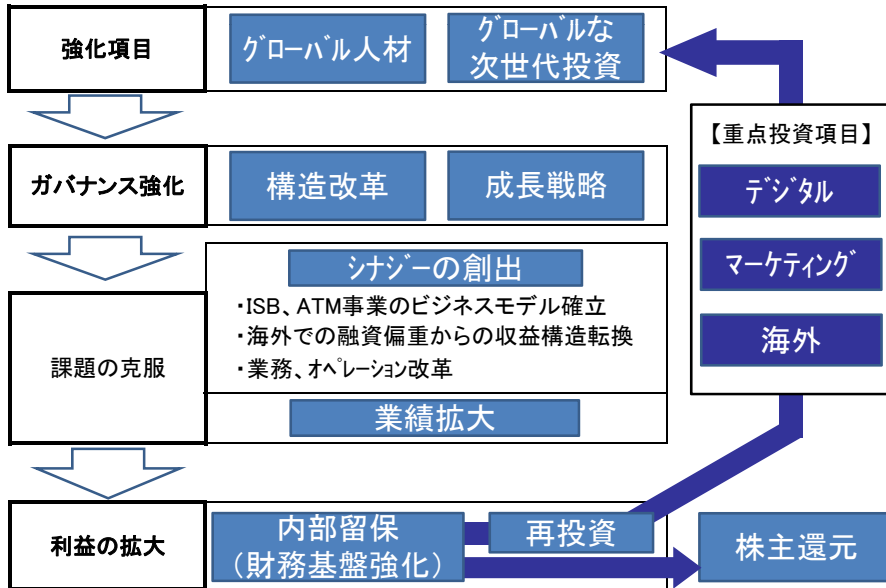
・鎌取店では、立地特性を踏まえたリニューアルを行い既存店を活性化



【リニューアル前】

【リニューアル後】

成長に向けた取り組み

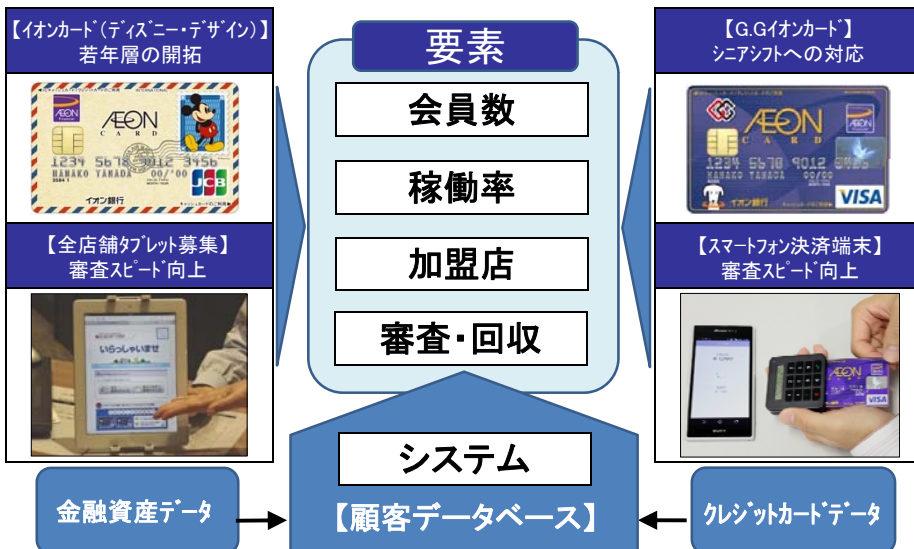


今後の方向性について

クレジット事業①



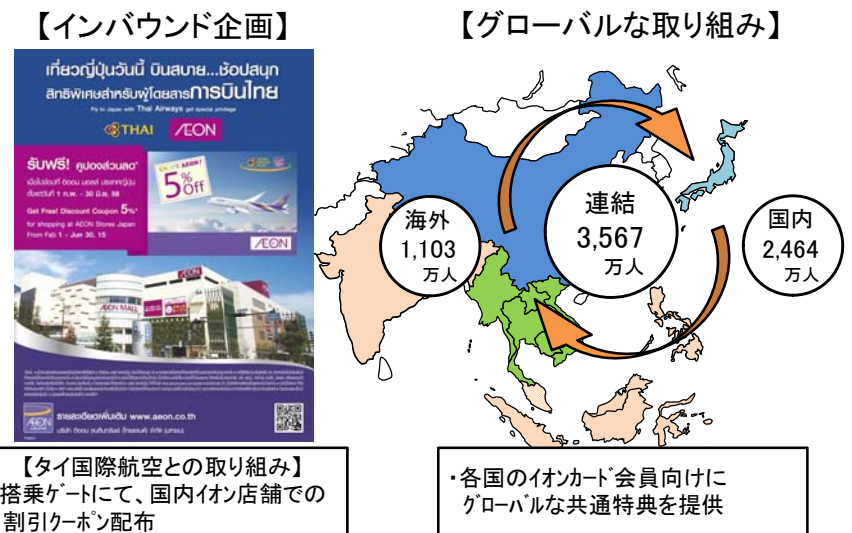
・クレジット事業を構成する各構成要素を強化し、拡大に努める



クレジット事業②



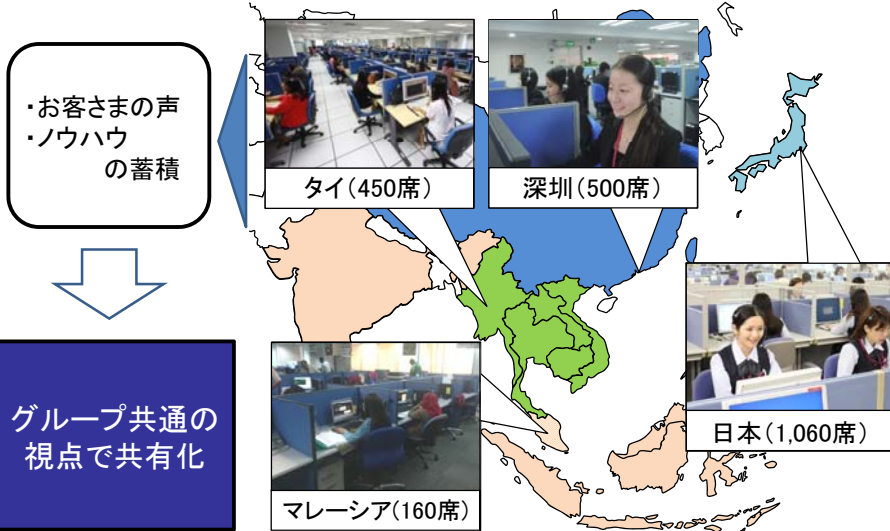
・小売の基盤を活用し、インバウンド及びアウトバウンドの取り組みを強化



フィービジネス



- ・膨大なお客様の声が集まるコールセンターを各国で展開
- ・最新システムの導入、センター人員の教育により効率性を向上



銀行事業①



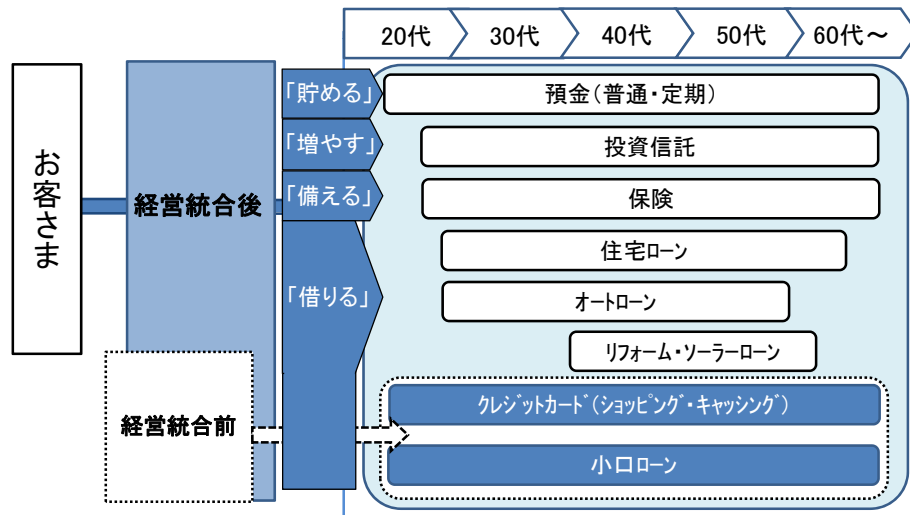
- ・さまざまなチャネルから得られる情報をデータベース化し、エリア分析を実施
- ・研修施設での集中的な人材教育により接客レベルを向上



銀行事業②



- ・経営統合により、さまざまな金融サービスの提供を開始
- ・ライフプランやライフスタイルごとの金融ニーズからターゲットを明確化し、商品をご提案



海外事業 (中華圏)



- ・香港では加盟店開発強化や現地イオンとの取り組みを強化し、ショッピング及びフィー収入を拡大
- ・中国では、香港とのシステム共同開発及び審査・回収ノウハウの共通化を推進



■ 中華圏の経常収益推移 (億円)

	2014		2015	
	実績	計画	前期比	
経常収益	221	270	122%	

重点実施事項

加盟店開発の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・営業ネットワークの拡大 ・特典強化による送客促進
イオンとの取り組み強化	<ul style="list-style-type: none"> ・営業企画のデータ分析 ・分析結果を活用した販促によりイオンでの取扱高拡大
中国事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・審査、回収ノウハウの共有 ・システムの共同開発

海外事業（メコン圏）



- ・タイでは、新たな顧客層の開拓(BTSでの募集強化)及び地方中間所得層の取り込みを強化
- ・周辺国ではベトナム、カンボジアに続き、ミャンマーは黒字化を計画



【AEON Rabbit Member Card】

メコン圏の経常収益推移 (億円)

	2014		2015	
	実績	計画	前期比	
経常収益	634	720	113%	

重点実施事項

新たな顧客層の開拓	・BTSとの提携カード募集強化により若年層を開拓
タイ全国での展開強化	・地方都市の発展に合わせた営業ネットワークの強化
タイのノウハウの水平展開	・ベトナム、カンボジア、ミャンマー、ラオスへの経営資源投入

海外事業（マレー圏）



- ・マレーシアでは、小売と一体となった総合金融事業の取り組みを推進
- ・マレーシアと比較して市場規模が大きいインドネシア、インド、フィリピンへの投資を強化



マレー圏の経常収益推移 (億円)

	2014		2015	
	実績	計画	前期比	
経常収益	338	410	121%	

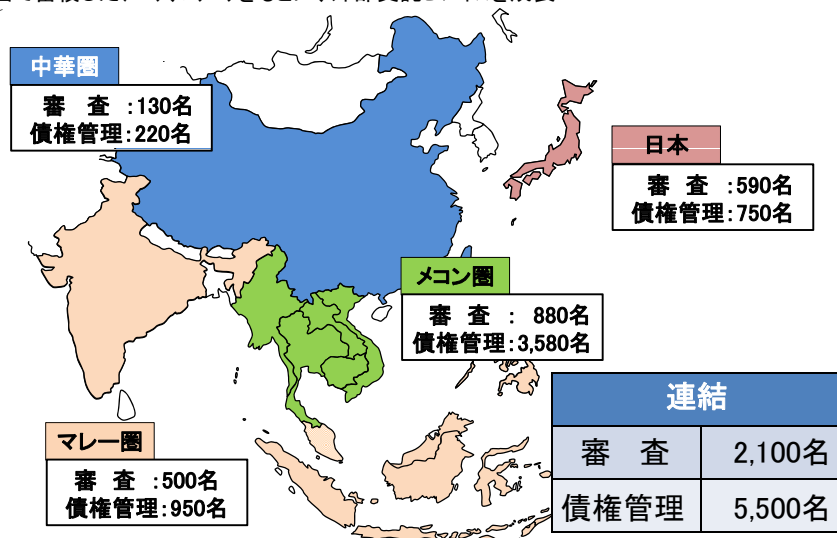
重点実施事項

カード会員数の拡大	・クレジットカード税の廃止に伴うポイント一体型カードの獲得強化
総合金融の取り組み推進	・イオンとの取り組み強化 ・新たな決済機能の導入
周辺国への投資強化	・マレーシアと周辺国の連携を強化し、業容を拡大

審査・債権管理の強化



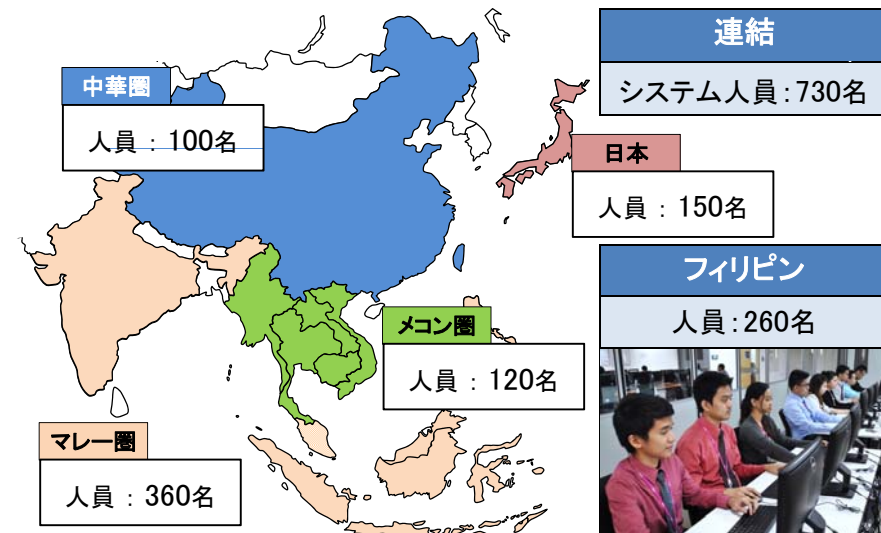
- ・日本のノウハウを活用した、審査・債権管理の効率化
- ・各国で蓄積したデータ、ノウハウをもとに、外部受託ビジネスを成長



システムの共通化の取り組み



- ・各国のシステムインフラの集約および共通化により、国内外で成長を加速



(参考) セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の推移



■ 貸倒引当金残高(セグメント別)

	クレジット	ファイ	銀行	海外	連結
期首貸倒引当金残高	299億円	28億円	33億円	114億円	475億円
貸倒引当金繰入額	88億円	12億円	0億円	297億円	397億円
貸倒償却額 (移管債権等含む)	126億円	9億円	2億円	243億円	380億円
期末貸倒引当金残高	261億円	31億円	31億円	168億円	492億円

(国内子会社) イオン銀行:32億円、イオンプロダクトファイナンス:47億円、イオン住宅ローンサービス:12億円

■ 利息返還損失引当金残高

	2013年度	2014年度
期首利息返還引当金残高	37億円	30億円
利息返還損失引当金繰入額	28億円	58億円
利息返還額(キャッシュアウト・元本充当)	35億円	40億円
期末利息返還引当金残高	30億円	48億円

(参考) 2014年度業績(香港、タイ、マレーシア)



■ イオンクレジットサービス(アジア)連結業績

	2013年度		2014年度	
	実績	前期比	実績	前期比
経常収益	149億円	126%	181億円	122%
経常利益	35億円	94%	48億円	138%
当期純利益	28億円	91%	39億円	139%

為替レート:香港ドル
・2013年:12.83円
・2014年:14.04円

■ イオンタナシンスアップ(タイランド)連結業績

	2013年度		2014年度	
	実績	前期比	実績	前期比
経常収益	489億円	150%	576億円	118%
経常利益	100億円	160%	101億円	101%
当期純利益	80億円	171%	80億円	101%

為替レート:タイバーツ
・2013年:3.21円
・2014年:3.35円

■ イオンクレジットサービス(マレーシア)業績

	2013年度		2014年度	
	実績	前期比	実績	前期比
経常収益	222億円	167%	283億円	128%
経常利益	73億円	151%	94億円	129%
当期純利益	54億円	153%	70億円	128%

為替レート:マレーシアリンギット
・2013年:31.30円
・2014年:32.58円

(参考) 2015年度業容計画(国内)



	2014年度	2015年度	
	実績	計画	前期比
有効会員数	2,464万人	2,600万人	+136万人
カードショッピング取扱高	3兆8,210億円	4兆2,000億円	109.9%
電子マネー取扱高	1兆9,860億円	2兆2,810億円	114.8%
キャッシング残高	3,704億円	4,000億円	+296億円
小口ローン残高	459億円	800億円	+341億円
無担保ローン残高	4,164億円	4,800億円	+637億円

